

環境方針及び環境施策の取組（令和4(2022)年度における取組結果一覧）

4つの環境方針の下で、以下のとおり環境施策の方向性を示し、取組事項として掲げる26の施策に取り組んでいます。また、各取組事項の推進はSDGsに達成につながっていくことから、環境方針とSDGsとの関係を整理しました。

環境方針	SDGsのゴール	施策の方向性	取組事項	計画期間（令和4(2022)年度から令和7(2025)年度）の目標等	令和4(2022)年度			
					目標等	取組結果	評価※	
I 脱炭素社会の実現	6 環境と気候変動の持続可能な開発のためのエネルギーへのアクセスを確保する	1 省エネルギー及び温室効果ガスの削減	(1) 省エネルギー型機器の採用	施設・設備の更新に合わせて高効率機器を導入	同左	継続実施	水道 3 ・ 工水 3 ・ 下水 3	
			(2) 自然流下方式による取水・送水・配水	・自然流下を基本とした水道施設の整備を継続 ・上流取水の優先的利用を推進	同左	継続実施	水道 3 工水	
			(3) 下水汚泥焼却炉の高温焼却化と二段燃焼化	入江崎総合スラッジセンター1系焼却炉の再構築に合わせた高温焼却化と二段燃焼化によりN ₂ Oを削減	同左	1系焼却炉の再構築工事を開始	下水 3	
	9 気候変動に脅かされる産業とインフラの強靱性を高める	2 再生可能エネルギーの有効利用	(1) 小水力発電の実施	小水力発電設備4基（江ヶ崎・鷺沼・平間・入江崎処理センター）の発電によりCO ₂ を削減	同左 小水力発電量 【江ヶ崎】：540,000kWh/年 【鷺沼】：530,000kWh/年 【平間】：860,000kWh/年 【入江崎】：60,000kWh/年 【合計】：1,990,000kWh/年	継続実施 小水力発電量 【江ヶ崎】：622,078kWh/年 【鷺沼】：328,047kWh/年 【平間】：955,428kWh/年 【入江崎】：56,600kWh/年 【合計】：1,962,153kWh/年	水道 4 ・ 工水 2 ・ 下水 4	
			(2) 太陽光発電システムの導入と発電の実施	太陽光発電システム3基（長沢浄水場、生田配水池、入江崎水処理センター）の発電によりCO ₂ を削減	同左 太陽光発電量 【長沢】：800,000kWh/年 【生田】：1,060,000kWh/年 【入江崎】：80,000kWh/年 【合計】：1,940,000kWh/年	継続実施 太陽光発電量 【長沢】：760,230kWh/年 【生田】：1,199,015kWh/年 【入江崎】：110,042kWh/年 【合計】：2,069,287kWh/年	水道 2 ・ 下水 2	
			(3) 廃熱発電設備の導入	入江崎総合スラッジセンター1系焼却炉の再構築に合わせた廃熱発電設備の導入によりCO ₂ を削減	同左	1系焼却炉の再構築工事を開始	下水 3	
	11 気候変動に脅かされる産業とインフラの強靱性を高める	3 グリーンインフラの活用	(1) 植栽の保全と緑化	上下水道施設における敷地内の植樹管理を行うことによるCO ₂ 吸収の取組を継続	同左	継続実施	水道 3 ・ 工水 3 ・ 下水 3	
	II 資源・エネルギーの循環促進	6 環境と気候変動の持続可能な開発のためのエネルギーへのアクセスを確保する	1 廃棄物の抑制・リサイクル	(1) 浄水発生土の有効利用	浄水発生土の有効利用を継続	有効利用率：100%	有効利用率：100%	水道 3 ・ 工水 3
				(2) 下水汚泥の有効利用	下水汚泥（焼却灰）の有効利用を継続	有効利用率：100%	有効利用率：98.7%	下水 3
(3) 建設副産物のリサイクルの推進				工事で発生した建設副産物のリサイクルの推進及び再生資源材料の工事への積極的な採用	同左	継続実施	水道 3 ・ 工水 3 ・ 下水 3	
9 気候変動に脅かされる産業とインフラの強靱性を高める		2 資源・エネルギーの有効利用	(1) 下水汚泥焼却熱を利用した温水プール	汚泥焼却工程から発生する余熱の入江崎余熱利用プールにおける有効利用を継続	同左	継続実施	下水 3	
			(2) 高度処理水の有効利用	川崎ゼロ・エミッション工業団地やせせらぎ水路等における高度処理水の利用を継続	同左	継続実施	下水 3	

※評価について（カッコ内は定量的な目標が定められている場合の基準）

- ・目標を大きく上回って達成（目標値に対して150%以上） ⇒ 1
- ・目標を上回って達成（目標値に対して105%を超え150%未満） ⇒ 2
- ・目標をほぼ達成（目標値に対して95%以上105%以下） ⇒ 3
- ・目標を下回った（目標値に対して50%を超え95%未満） ⇒ 4
- ・目標を大きく下回った（目標値に対して50%以下） ⇒ 5

環境方針	SDGsのゴール	施策の方向性	取組事項	計画期間（令和4(2022)年度から令和7(2025)年度）の目標等	令和4(2022)年度		
					目標等	取組結果	評価※
Ⅲ 健全な水循環・水環境の創出	3 清潔な水と衛生	1 水資源の確保・有効利用	(1) 水源の保全	水源地におけるエアレーション装置によりアオコの異常発生を抑制、しゅんせつを実施して貯水池の有効貯水容量を維持	同左 相模貯水池のしゅんせつ 150,000m ³ /年	継続実施 相模貯水池のしゅんせつ 124,390m ³ /年	水道 工水 3
			(2) 水資源の有効利用の推進	老朽管の更新や漏水調査を実施し、水資源の有効利用を推進	同左	継続実施	水道 3
	14 海の豊かさを守ろう	2 良好な水環境の創出	(1) 下水道の未普及地域等の解消及び水洗化の促進	登戸土地区画整理地区や河川沿いなどの未普及地域の解消に向けた下水道の整備及び水洗化を促進	同左	継続実施	下水 3
			(2) 事業場排水の指導及び水処理センターの放流水質の確保	事業場排水指導を実施、水処理センターの良好な放流水質を維持	同左 放流水の水質基準適合率：100%	継続実施 放流水の水質基準適合率：100%	下水 3
			(3) 高度処理の推進	等々力水処理センターにおける高度処理化を推進、入江崎水処理センターにおいて段階的の高度処理を導入 高度処理普及率 令和6(2024)年度目標：100%	同左 高度処理普及率：59.3%	継続実施 高度処理普及率：59.3%	下水 3
			(4) 合流式下水道の改善	大師河原ポンプ場の再構築及び六郷遮集幹線の整備を推進 合流式下水道改善率 令和5(2023)年度目標：100%	同左 合流式下水道改善率：73.5%	継続実施 合流式下水道改善率：73.5%	下水 3
	Ⅳ 環境に配慮した行動の促進	6 持続可能な消費生活	1 事業活動における適正な環境管理	(1) 市役所の率先した環境配慮の取組	廃棄物の削減、グリーン購入の推進、空調の適正管理、電動車の導入などを実施	同左 電動車の新規導入：6台	継続実施 電動車の新規導入：6台
(2) 省エネ法に基づくエネルギー管理の取組				省エネ法に基づき、中長期における年平均1%以上のエネルギー消費原単位を低減	同左	中長期におけるエネルギー消費原単位：年平均0.3%増	水道 工水 下水 5
(3) 温対法及び温対条例に基づく温室効果ガス削減の取組				温対条例の温室効果ガス削減目標 令和6(2024)年度 全体：79,528t-CO ₂ 川崎市上下水道事業中期計画の温室効果ガス削減目標 令和7(2025)年度目標 水道・工水：▲53.3% (平成25(2013)年度比) 下水：▲27.7% (平成25(2013)年度比)	同左 令和4(2022)年度削減割合 水道・工水：47.0%削減 (2013年度比) 下水：22.7%削減 (2013年度比)	継続実施 温室効果ガス排出量の削減割合 水道・工水：34.7%削減 (平成25(2013)年度比) 下水：22.7%削減 (平成25(2013)年度比)	水道 工水 下水 4 3
11 持続可能な都市づくり		2 環境技術の研究開発及び活用	(1) 下水道における環境技術などの研究開発	温室効果ガス削減、省エネ・創エネ技術の研究開発を推進	同左	継続実施	下水 3
			(2) 世界の水環境改善に向けた国際事業	かわさき水ビジネスネットワークを通じた「官民連携による国際展開」の活動と、開発途上国等への職員派遣や海外からの研修生・視察者の受け入れによる「技術協力による国際貢献」を推進	同左	継続実施	水道 工水 下水 3
			(1) 環境計画年次報告書の公表	上下水道局環境計画に基づく取組の評価を、毎年度、環境計画年次報告書で公表	同左	継続実施	水道 工水 下水 3
17 持続可能な社会の実現		3 環境意識の向上に向けた取組の推進	(2) 職員の環境意識の向上	職員の環境意識の向上を図るため、環境関連講習会や研修などに派遣	同左	継続実施	水道 工水 下水 3
			(3) 市民の環境学習の推進と広報活動の充実	広報施設における情報発信、各種イベントでのPRなどを実施	同左	継続実施	水道 工水 下水 3